

きぼうの虹フォトコンテスト特選作品  
「独り」木村 仁さん (工学部)



発行所  
北海道大学生協同組合  
札幌市北区北8条西7丁目  
教職員委員会編集  
電話 011-746-6218

主な記事紹介

- 四画・五画 第6回フォトコンテスト「北大百景2018」審査結果発表!!
- 六画 こころの健康を考える ③ 健康な生活
- 八画 文化財(予備重)へ行こう 第2回

北海道大学大学院 教育学研究院 渡邊 誠  
北海道大学 教員准教授 角 哲

附属図書館が行うイベントの一つに、図書展示があります。北図書館のカウンター前や本館のオープンエリアなど、目につきやすい場所で開催しているのですが、ご覧になったことがある方も多いのではないのでしょうか。本日はこの紙面をお借りして、附属図書館と北大生協が連携して行っている図書展示についてご紹介させていただきます。

4月、北大に新入生を迎える時期に、北図書館では「ようこそ北大へ！新生活を彩る、役に立つ、やる気がでる！おすすめ本」と題した図書展示を実施しました。この展示は「一部の本については同じものが北大生協では購入でき、北図書館では借りることができるといったコンセプトの下、実施したものです。展示した本は「レポート・論文の書き方」、「ライフスキル&コミュニケーション」、「新生活応援」といったテーマから選びました。自分の学生時代を思い出してみると、入学したばかりの時には、大学生活への不安を解消したり、レポート執筆の方法を学んだりできる本が図書館にあるとは思いつかなかったような気がします。そんな人でも、ふらつ

附属図書館と北大生協の  
連携図書展示

北海道大学附属図書館  
利用支援課 調査支援担当

杉山 あかね

Opinion!



と立ち寄った図書館で、4年間の大学生活のパートナーとなるような本を見つけることができるように、この展示を企画しました。このような、学生生活に密着した図書展示ができるのは大学図書館な

には4778点もの応募があったそうです。その中から、金賞やアカデミック賞・ナイスランナー賞等が選出され、入賞者には豪華な賞品が授与されます。金賞の賞品はなんと図書カード3万円だそうです。昨年度は北大生が見事、銅賞とアカデミック賞に入賞しました！現在附属図書館で展示しているのは、歴代の金賞受賞作、及び過去の入選作品の本のうち、附属図書館の所蔵分です。普段の展示はテーマに沿った本のみを並べることが多いのですが、この展示では、コメントのポップも一緒に展示しています。コメントを読むと、全国の大学生がどんなことを感じながらその本を読んだのかわかるので、次に読みたい本を探す手がかりになると思います。厳選した一冊を持って夏休みを迎え、読書を楽しんでもらえれば嬉しいです。

附属図書館は、このような図書展示を通して学生さんの読書活動を積極的にサポートしています。教職員や学生さんによる図書展示企画の持込みも大歓迎です。今後とも連携企画を実施していきますので、どうぞご期待ください。

## 環境活動を持続するには 「エコケッチ」な生活スタイルはいかがですか？

# 全国環境セミナー (in 宮城教育大学) 参加報告

北大生協では、毎年6月に全国大学生生活協同組合連合会が主催する「全国環境セミナー」に複数名の学生を派遣して、全国の大学の環境活動の取組みの学習や交流をして、その成果をフィードバックするようにしています。

北海道大学 文学部2年 竹瀝 啓祐

今年のセミナーは、2000人を越える参加者が集まりました。常に5〜6人単位のグループに分かれてその都度グループで意見交流するという形式で行ったこともあり、非常に活気に満ちたセミナーでした。

印象に残ったプログラム

1日目は世界や日本に山積する環境問題について学びつつ、個々人の生活に目を移して自分たちに何ができるかを考え、共有しました。その後、「環境活動を行う意義とは何か」をテーマにグループ内で議論が行われ、非常に有意義な時間を過ごしました。終盤には宮城教育大学前学長である見上一幸先生が「SDGs※と教育」について講演をされました。この講演では、大学と生協・学生委員会の協力や大学同士の協力について触れられ、「ひとりも置き去りにすることなく同じミッションに取り組む」ことの必要性を教えて頂きました。

2日目には分科会形式で、各大学の学生委員会と認定特定非営利法人・樹恩の取り組みが紹



介されました。自分が参加した分科会では樹恩の間伐材を用いた割り箸について学びました。樹恩の担当者の方が、「多くの方は割り箸が環境に悪いという印象を持っていて、なかなか割り箸を使ってもらえないことがある」と話されていたのが印象的でした。森林の手入れをする際に発生した間伐材を用いた割り箸は、売上も森林保全のために使われるので、環境に優しいものなのです。北大の生協食堂でも下川町の間伐材を用いた割り箸が用意されていますが、利用者にもこうした事情を周知していくことも必要かもしれません。

各大学の展示企画

セミナーの展示企画では広島大学・富山大学などの学生委員会が実際に行っている環境活動が展示形式で紹介されました。その中では、生協店舗で販売した使用済み弁当容器の回収に応じてくれた学生にくじを引いてもらい、抽選で生協店舗で使える割引券をプレゼントするといった、参加する一般の学生にもメリットを提示するような活動が印象的でした。

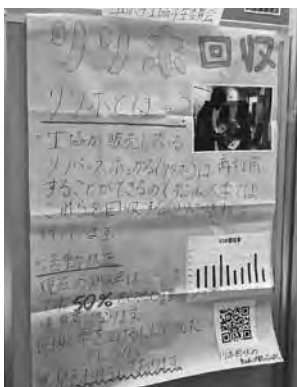
環境問題に向き合うために

今回のセミナー全体でも、「環境活動を行いつつ、メリットを享受できるようにする」という方向性で議論が行われました。こうした「環境活動を企画し、運営していく人にも、参加者として環境活動に携わる人にも無理なく環境問題に向き合ってもらいたい」という思いから、「エコケッチ」という言葉（環境に優しい生活を心がけつつ、水道代や電気代を節約するという意）も本セミナーの中で生まれました。みなさんも、「エコケッチ」な生活はいかがでしょう。

※SDGs「持続可能な開発目標」2015年9月の国連総会にて採択された。

## いじわるじいさん

米国ミネソタ州ダラスに学会参加の男達について行って来た。五大湖はスペリオル湖の湖岸都市。上下に動く巨大な橋や、ビル街を縦横に渡る空中通路（スカイウォーク）が興味深く、街の郵便局で保安検査をされて驚きもした▼地元の人々の案内で湖沿いに郊外に行く。男達はフィッシングライセンスを取得し、ハイウェイに停車して川に下り、イワナ釣りを開始。私は森の匂いの濃い藪や川辺をうろつき、隘路で思いがけない花を見つけた。白い花のこれはエンレイソウ？▼毎年北大植物園でエンレイソウを見、藻岩山ではヒトリシズカなどと一緒に眺めたが、今年はまだ見ていなかった。ここ北米で出会うとは。不慣れた地で友達に会ったように嬉しかった。小ぶりなヤエザキエンレイソウだった▼ホテルに戻るのとたちまち米国の現実。テレビ画面の幼子の泣く姿にくぎ付けになる。ニュースタイトルは移民危機。不法移民の親子分離の映像が繰り返される。親達は巨大な檻のような仕切りの中に収容されていた▼親と幼子にとって、これ以上の苦しみがあるだろうか。親子が林を歩き野の花と触れあえるようになることを願うばかりだ。（今日子）



# 品台湾通信

## 「北大珈琲」と「北大紅茶」

~第3回~

北大台湾同窓会会員・北大台湾演習林百年祭発起人 菅 大志

### 菱葺屋根と北大の歴史的建築物

台湾演習林事務室の屋根は菱葺屋根（ひしびきやね）というもので、台湾の日本建築で菱葺屋根が使われているのはここだけかと思われ（写真1・2）。この菱葺屋根は軽量で雪に強いことから、北海道開拓期の洋風建築に愛用されていました。札幌農学校から歴史が始まっている北大には、北海道開拓期に作られた洋風建築が多く残されています。そこで、この菱葺屋根に注目して北大の歴史的建築物を調べてみたのですが、奇妙なことにそれぞれの建築物の説明には菱葺屋根に関する記述はありませんでした。そのため写真などから判断したところ、以下の建築物にこの菱葺屋根が使われていることがわかりました。

年代順に並べると、国の重要文化財・札幌農学校第2農場（モデルバーン）の建築群（1877）、重要文化財・旧札幌農学校演舞場の時計台（1878）、重要文化財・北大植物園建築物群（1882）、開拓の村の恵迪寮渡り廊下（1905）、有形文化財・旧林学教室の古河講堂（1909）、北大文学部二風谷研究室（旧マンロー邸）（1933）、国登録有形文化財・北大苫小牧研究林森林記念館（1935）などがありました。



写真1：演習林事務室入り口の菱葺屋根  
2017年8月15日撮影

### 台湾演習林事務室になぜ菱葺屋根が？

雪が降らない台湾でも洋風建築に菱葺屋根は少数ありますが、日本建築には陶器製の瓦屋根が基本です。ところが、この台湾演習林事務室だけは日本建築にも関わらず、瓦屋根ではなく菱葺屋根なのです。設計図の段階では菱葺屋根ではありませんが、いったい誰が何のために菱葺屋根にしたのでしょうか？

この演習林事務室は1920年3月に新築されていることから、この時台湾演習林の初代主任であった籠田又平が菱葺屋根に関与しているのは間違いありません。そしてまた、籠田こそが次回紹介する北大珈琲の歴史を拓

いた人物だと思われます。籠田は北大林学実科卒で、菱葺屋根の古河講堂で学んだ後、1917年7月から1921年6月まで赴任しています。おそらく籠田は、雪が降らない台湾でも北大で慣れ親しんだ菱葺屋根を使うことで、台湾演習林に北大らしさを求めたのでしょう。前回述べたように台湾では300人を超える先輩達が台湾各地で活躍していましたが、北海道から遠く離れた台湾で暮らす先輩達にとって、この演習林事務室は台湾における北大の象徴となったに違いありません。本稿で後に紹介する北大紅茶の新井耕吉郎が魚池村に紅茶試験支所を作ったのは、当時は魚池村と埔里町はトロッコでつながっており、埔里町の演習林事務室が近かったのも理由の一つだったと考えられます。



写真2：演習林事務室右手前の屋根は戦後追加されたもの  
2017年8月15日撮影

### 台湾演習林事務室の運命やいかに

北大の歴史的建築物としては唯一国外に残る台湾演習林事務室。残念ながら北大の手から離れてしまった後、ほとんど利用されることなくその所属が二転三転し、現在も無人でいつ火災で焼失してもおかしくない状態が続いています。実際1978年には、この演習林にあった別の北大の歴史的建築物が火災で焼失しています。2002年には、演習林事務室が中興大学の建築として台湾の政府指定歴史建物に登録されたものの、現在でもこの歴史を知るべく看板等はありません。

私が去年北大台湾演習林百年祭をやると思ったことの発端は、百年前の1917年8月15日に開設された台湾演習林派出所の演習林事務室と珈琲について、台湾の人々に知ってもらうことで、この演習林事務室を火災などから守ってほしいと考えたからなのです。

次号ではこの北大台湾演習林で作られていた北大珈琲についてご紹介したいと思います。

# 大百景2018」審査結果発表!!

きぼうの虹フォトコンテストも今年で6回目となりました。テーマは「北大百景2018」。6月4日から24日までの3週間の応募期間で54点の作品が寄せられました。今年は応募期間中梅雨のようなお天気が続き、なかなか北海道らしい爽やかな気候にならなかったのですが、四季折々の力作が集まりました。その中から各審査員が悩みながら特選1点、入選5点を厳選いたしました。また、秋には昨年同様全応募作品の展示会を予定しています。お楽しみに。

応募していただいた皆さん、ありがとうございました。来年もよろしく願いいたします。

## 特選

### 「独り」

#### 木村 仁 (工学部)

誰でしょうか。紅葉に見とれています。私もまたそんな光景に見とれながらシャッターを切る。

#### ●審査員コメント

北大金葉祭の主役であるイチョウ並木(北12条門)のライトアップを見事にカメラに収めた一枚です。撮影者がコメントされているように圧倒的な迫力で思わず息をのんで見とれてしまうのも頷けます。カメラの意思なのでしょうか、悪戯なのでしょうか、道の真ん中にある他の撮影者さえもぼかしています。北大の数少ない夜のイベントを題材にした素晴らしい作品です。



## 学生委員会賞

### 「草影の物語」

#### 井口 光 (農学部森林科学科3年)

北大農場にて

#### ●審査員コメント

北大の自然豊かさを表したこの一枚。北大ではリスはよく見かけられるが、キツネはなかなか見ることができないだろう。また、ただ単にキツネを映しているだけではなく、親子キツネという温かさを伝えるショットを撮ることで、北大の持つ自然本来の豊かさ・温かさを表し、札幌という都会の喧騒に吞まれることなく自然を保っている様子がうかがえる。



## 院生委員会賞

### 「【函館移行生への特効薬】」

#### 高品 裕太 (水産学部海洋生物科学科3年)

【効果】「札幌に戻りたい…」→「おっ、！案外、函館もええとこやん！」と発想の転換を促します。

#### ●審査員コメント

桜が散り、新緑の萌え出づる季節の変わり目の様子が美しい色彩で切り取られています。東屋やベンチなどの人工物も綺麗な構図で収まっており、函館キャンパスの魅力的な姿が伝わってきました。函館キャンパスももちろん大事な北大の魅力であり、それを見事に表現したこの作品は受賞に相応しいと感じ、選出させていただきました。

# 第6回フォトコンテスト「北

審査員：生協学生委員会、院生委員会、教職員委員会、北大教職員写真同好会、生協理事会室から各1名

\*教職員写真同好会の皆さんには、きぼうの虹の表紙写真をはじめ、長い間お世話になっております。この場を借りてお礼申し上げます。

特選および各賞入選者の皆さんには、生協電子マネーチャージを贈呈いたします。



## 教職員写真同好会賞

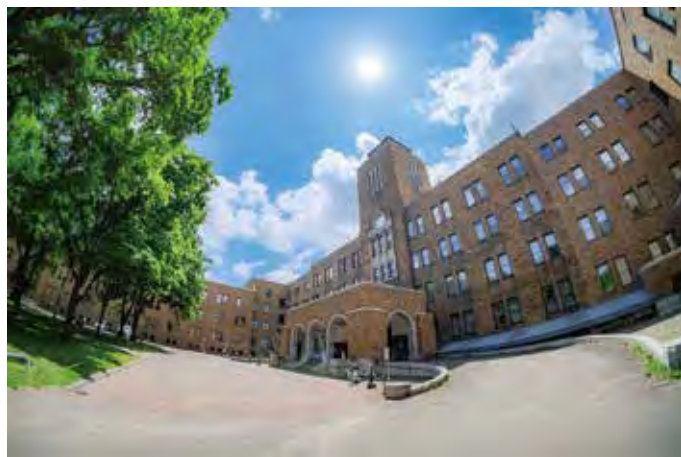
### 「朝の照葉」

山田 夏希 (農学部森林科学科)

朝、銀杏並木の脇に目をやると美しい紅葉とともに、鮮やかな葉が金色の絨毯のように広がっていました。

#### ●審査員コメント

構図をととても意識して撮ったことがうかがえます。対角に合わせて配置された紅葉が奥行きを感じさせ、この景色がどこまでも続く様子が想像できます。また、縦の構図にすることで木々が迫力を増し、より印象に残る作品となりました。



## 教職員委員会賞

### 「初夏の農学部」

鈴木 洸三郎 (大学院情報科学研究科 修士1年)

6月中旬に農学部の校舎を魚眼レンズで撮影しました。木々の色や日差しや空の青さがとてもきれいでした。

#### ●審査員コメント

現在、学部校舎として使用している建物の中で、北大最古の農学部校舎。北大の「顔」とも言える風格のある建築物です。北海道の初夏、眩しいけれど爽やかな青空と太陽を校舎が包み込むように魚眼レンズで切り取った構図は、多くの学生を育んできた包容力を感じさせます。



## 理事会室賞

### 「真夜中のメインストリート」

山本 淳生 (薬学部)

カメラを始めたばかりでカッコいい夜景を撮ってみたい人少ない午前1時頃に撮った写真です。

#### ●審査員コメント

外灯の星形にひかっている光が印象的です。『雪明り』という言葉があるように、冬の夜は意外と明るいので幻想的な出来栄えになったのではないのでしょうか。きれいに除雪されたメインストリートと校舎の構図も良く、理事会室で一番人気でしたよ。

# 心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

## 渡邊 誠



ずいぶん前から、飛行機が好きです。好きになつたころ、「飛行機はなぜ飛ぶか」の類の本を読もうとしました。しかし数式が一杯あつて、悲しいことに何のことかよくわかりません。すぐに挫折です。今度は「飛行機はなぜ落ちるか」の類の本を手にとつてみました。こちらは理解できます。なぜ落ちるかかわかる。逆になぜ飛ぶかもわかるような気がしました。それから航空機事故に関する本をぼつぼつ読んでいたのですが、ある時期から、航空機事故遺族と航空機事故救援の手記を集中的に読むようになりました。八十冊くらいはありました。かつては日本でも大きな航空機事故がいくつも起こつていたのでした。遺族の人たちの手記は物凄くものでした。まるで文章の一つ一つが墓標のようです。こんな悲しい話が世の中にあつたのかと絶句しました。まるで血で綴られていくような文章があります。読みながら大切だと思ふ箇所を付箋に書き写して貼つていったら何十という数になり、本当に沢山の墓標が出てくるような姿になつた本もありました。一冊また一冊と読み続けていくと、なんで自分はこの悲しい話ばかり読んでいくのだらうと、何だかよくわからなくなつてきました。

これから、遺された人の手記、追悼集、凄惨な救援の記録を読み始めると、覚悟の気持ちが出てきます。読めば気持ちも揺れるという当然の理由もありますが、それだけではなくて、人が生きること、死ぬことをめぐる自分自身の認識も揺れて、それをつくり直すことを迫られる感じがします。そして、何十冊か読めば揺れなくなるといふのもなく、必ず何か新しいことを教えられる。一つ一つが他に代えがたい。人間一人一人のかけがえの無さとはこういうことか、と実感する思いがあります。心理カウンセリングで何百人の人と会つても、次の一人は、必ずこれまでの人とも違ふということ、同じかもしません。

そのうち、何がどうと言ふのは難しいのですが、自分が成長しているという感じが湧いてきました。人としても、心理専門職としても。自分で言ふのは恥ずかしいのですけれど、五十過ぎて成長するんだ！という感じ。たくさんさんの遺族の手記、追悼記、救援の記録から、いつしか膨大な恩恵を受けていることに気がつきました。それらは振り返つてみれば、人が生きるといふこと、死ぬといふこと、悲しむといふこと、愛するといふこと、ささえ合うといふことについての、じつに豊穡な沃野でした。



死にまつわることに、人を成長させる力があるように思います。死とその過程に関する研究で一般にもよく知られているキューブラー・ロスは、死を目前にして、人は最後の成長をするのだと言つています。でも、これは、自分自身の死という極限の話です。加齢により死の実感が少しずつ迫りつつある世代のみならず、死を意識しない若い世代の人にも益するところがあるのではないかと思ひ、私は最近では名付けて「デス・ゼミ」。学生さんと相談しています。

授業でも、死に関してまとまつた形で触れることをしています。ゼミでもやつてみたいですね。大事故大災害の記憶の風化が危惧されています。でも、大切なことだからと、襟を正して学ぶというだけでは窮屈だと思ひますし、続くのでしょうか。その内容は、極限の悲惨なことです。被災者の一番の心の傷は、忘れ去られること、と言ひます。関心を持ち続けられることの意味は、とても大きいでしょう。大事故大災害の死に満ちた記録には、私たちが成長させる豊饒さがあるといふことが、もつと言われても良いのではないかと、私は思つています。

# ほけんのお話

今回は、この時期お申し込みが増える海外旅行保険のお話です。北海道協同保険サービスでは、年間300件近くのお申し込みがあり、海外への出張、学会、留学、海外インターシップなどを目的として海外旅行保険に加入していただいています。

海外旅行保険は、同じ保険種類である普通傷害保険がけがによる入院や通院の保険日額が定額なのに対し、けがと病気を補償し、保険金額の範囲内で実損払いです。

補償プランは、ご自身の補償として「傷害死亡」「傷害後遺障害」「治療・救済費用」「疾病死亡」「救済費用」、他人にけがさせたり物を損壊させたりしたときの補償として「賠償責任」、持ち物の補償として「携行品損害」、その他の補償として「偶然事故対応費用」「航空機寄託手荷物」などで構成されるセットプラン、それぞれの補償を適宜組み合わせるフリープランがあります。セットプランは必要な補償がパッケージされているので安心です。

補償を考える場合、「治療・救済費用」「賠償責任」を優先することが大事で、セットプランでは「治療・救済費用」を無制限にすることを勧めます。

東京海上の保険金支払いのデータによると、保険金支払いの大半が「疾病治療費用」(疾病治療69.2%)となっています。保険金支払い例では、①カナダで転倒し右肩から腕にかけて骨折、帰国後に手術、入院・通院、後遺障害が残り、傷害治療費用55万円、傷害後遺障害1200万円、偶然事故対策費用5万円、②アメリカで人とすれ違う際に転倒し、カメラを破損で携行品損害3万円、③フィリピンで階段から転落し左膝四頭筋腱断裂、手術・入院、看護婦とともに帰国して傷害治療費用76万円、救済者費用91万円、④オーストラリアでホテルの部屋を水浸しにして弁償して賠償責任62万円などがあります。

海外で病気やけがをした場合の治療費や救済費用は高いので、海外旅行保険に加入する、予防接種をするなどの十分な備えをしましょう。

海外旅行の際は、北海道協同保険サービスにご相談ください。



北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

## 北大生協組織委員会報告

### 学生委員会

#### ■第1回学生総代会議 (総代のつどい)

6月18日、19日で総代会後初となる第一回学生総代会議を北部食堂にて実施しました。内容としては、まずは総代に対して改めて総代の役割や生協の説明、またその後には総代に対して食堂を使ってきたことに対する感想や意見交流を職員と一緒に行いました。また、その後は総代と職員と一緒に意見交流で出た意見をもとにしてどのような企画ができるかを考えて企画創りを行いました。今年度、次は7月17日(火)に実施予定です、ぜひご参加ください。

#### ■学生委員会公式HP、Twitter http://hokudaiqi.web.fc2.com/

@HU\_COOP\_GL\_CS

学生委員会の活動や学生委員の日頃の様子など、学生委員会のことについて詳しく知りたい方は、公式HP・Twitterをぜひご覧ください。

#### ■学生委員会連絡先

gakusei@coop.hokudai.ac.jp

学生委員会に意見・質問のある方は、こちらのメールアドレスにご連絡ください。

これからも学生委員会をよろしくお祈りします!!

### 院生委員会

#### ■6月16日(土) 院生交流ジンパ2018 を開催しました。 参加者30名

開催当日は、数年振りに良い天候に恵まれました。参加者は、院生30名(院生委員10名含む)が集まって北海道の風物詩・ジンギスカンを囲んで交流しました。今年も幅広い研究科(院)からの参加がありました。

参加者からは、「次も交流企画をやってほしい」「来年もジンパをやってほしい」などありがたい声をいただくことができました。



### 留学生委員会

#### ■さくらんぼ狩り食べ放題&小樽運河自由散策バスツアー」開催!

7月7日(土)生協組合員(留学生優先)とその家族を対象に、友達同士・カップル・今回は少なかったですが乳幼児や子ども連れ家族9カ国57人が参加。



悪天候の影響でさくらんぼの生育が遅れていたのと前日までの降雨で農園の中はぬかるんで、収穫可能な2種類でしたが赤くても甘味がなく、みなさんは少しでも甘いさくらんぼを探して足元を気にしながら、もぎ取っては口に運んでいました。残念な【さくらんぼ狩り】になってしまいました。雨に濡れずに初めて自分でもい



自由に食べる事が出来たことを喜んでくれました。その後は各自小樽運河自由散策を楽しまれて無事に帰礼。降車時には「ありがとうございます」と笑顔で声をかけられました。これからも留学生に対応した生協らしいイベントを企画します。

### 教職員委員会

■教職員総代会議・学内7ヶ所を8月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告の後、教職員の皆様に利用者の立場から色々なご意見をうかがっています。6月は12日、14日、7月は10日、12日に開催しました。

■教職員委員会・毎月1回、18時~19時半に開催しています。総代会議で上がった組合員の声についての検討、きぼうの虹の編集・発行について討議しています。6月は14日、7月は24日に開催しました。

■「きぼうの虹」..この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。今号はフォトコンテストの結果発表号です。応募数は昨年よりも若干少なくなりましたが、質の高い作品が多く、審査員も悩んだ末の各賞です。入選しなかった作品の中から、来年の北大卓上カレンダーに使われる作品があるかもしれませ

【編集後記】  
きぼうの虹377号をお届けします。やっと思わなくなりましたね。フォトコンテスト応募作品展示を今年も秋に開催する予定です。応募いただいた力作を、多くの方に堪能していただきたいと思っておりますので、皆様、是非見に来てくださ

陸軍特別大演習と北海道帝国大学正門の改築  
 現在の正門は2代目の正門として1936年に建設されました。この年、北海道では陸軍特別大演習と昭和天皇の地方行幸がありました。北海道庁は、その記録を『記念写真帖』（1938）として遺しています。札幌地方への最初の行幸は10月1〜2日で、同書は「大本営（北海道帝国大学農学部）の説明とともに現在の農学部本館の写真を掲載しています。つ



花崗岩仕上げの正門

ま、昭和天皇が農学部本館に滞在し、それに合わせて現在の正門が設置されたのです。新たな正門を設置するにあたり、北海道帝国大学営繕課では課内から設計案を募集し、30点余の応募があったといわれます。どのような正門を設置する

花崗岩で仕上げられたこの正門は、垂直性が強く、当時世界的に流行したアール・デコ調の幾何学的なデザインで、主門は高さ4.5m、脇門は3.5mの堂々としたものです。主門の門柱には照明も付されています。竣工直後の写真には、まだ現在の鉄扉は確認できませんが、主門の北側の門柱に大学名が記されているのは現在と変わりありません。なお、門につづく石積の堀は1967〜1973年にクラーク会館や百年記念館を設計した太田實教授の設計で改修され、現在に至っています。



南門と旧門衛所

札幌駅から通称「北大通り」を北に進むと、歩道でカメラを構える観光客の姿をみかけます。今回は、札幌の観光地ともいえる北海道大学キャンパスで記念撮影スポットのひとつとなっている正門をみていきたいと思います。

滞り、昭和天皇が農学部本館に滞在し、それに合わせて現在の正門が設置されたのです。新たな正門を設置するにあたり、北海道帝国大学営繕課では課内から設計案を募集し、30点余の応募があったといわれます。どのような正門を設置する

のか、世間の関心となったようです。実際、「北海タイムス」は応募案（1936.2.8）や工事中（1936.9.6）の記事を掲載しています。実施設計は、優秀案をもとに営繕課長であった落藤藤吉（おちふじとうきち）が担当しました。旧正門は赤煉瓦と硬石を重ねたもので、その両脇に人の背丈ほどの木柵を設けていましたが、現在の正門と扉は、鉄筋コンクリート造に変更されました。また、工費は26,000円余であったといえます。

上述の通り初代正門は、赤煉瓦と灰色の硬石を交互に重ねたものでした。主門と脇門は、煉瓦の腰壁で繋げられ、その上に鉄柵を載せていました。こうした特徴でピンときた方もいるのではないのでしょうか？そう、現在の北海道大学南門が初代正門、すなわち「札幌農学校正門」です。もともと、主門の鉄扉はなく移転後に設置されました。ただ、現在の正門の計画時、南門も鉄筋コンクリート造で新築する予定で、実際に予算も承認されていました。それにも関わらず、移転したのは当時の財政事情も影響したのです。とはいえ、西側の脇門の腰壁の一部が通行用に削られたもの、往時の姿を今に伝えてくれます。

現在の正門を入った右手、現在本部事務所の位置には予科及実科教室が設けられました。この施設は、専門課程に進む前に教養科目を学ぶためのものです。また、左手の国際交流会館の位置には、当時官舎が軒を連ねていました。現在、南門の脇には入構車両を管理する守衛所があります。この建物は、もともと予科及実科教室から木立の中を北に進む道の角に設けられたもので、旧正門とともに建設された門衛所です。当初は現在の半分ほどの規模の建築で、1924年に増改築されました。下見板というペンキ塗りの白い板壁と、半切妻というトタン仕上げの緑の屋根の構成は、キャンパス移転後に建設された旧昆虫学及養蚕学教室（1901、国登録有形文化財）と同じで、旧正門とともに札幌農学校時代の生き証人として現在のキャンパスに佇んでいます。

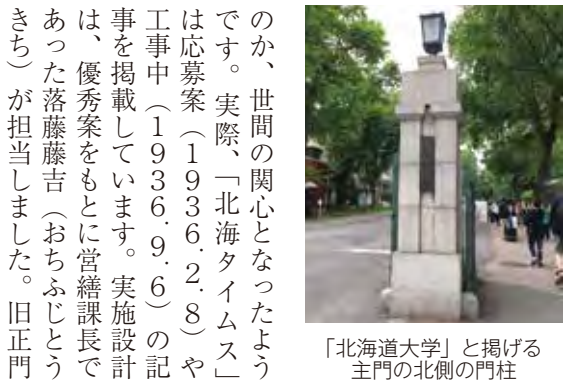
# 文化財予備軍 へ行こう

## 第2回

### ～北海道大学正門～

北海道大学客員准教授・非常勤講師  
角 哲 (かく さとる)

正門の全景と観光客



「北海道大学」と掲げる主門の北側の門柱

札幌農学校のキャンパス移転と正門の設置  
 とところで、現在地に初代正門が完成したのは1904年10月です。1903年、北一条にあった札幌農学校が北八条に移転したことを機に第一農場が1904年3月から順次移転し、農学部本館に至る道路とともに7月に着工されました。正門の奥には中門と門衛所も建設されました。

現在の正門を入った右手、現在本部事務所の位置には予科及実科教室が設けられました。この施設は、専門課程に進む前に教養科目を学ぶためのものです。また、左手の国際交流会館の位置には、当時官舎が軒を連ねていました。現在、南門の脇には入構車両を管理する守衛所があります。この建物は、もともと予科及実科教室から木立の中を北に進む道の角に設けられたもので、旧正門とともに建設された門衛所です。当初は現在の半分ほどの規模の建築で、1924年に増改築されました。下見板というペンキ塗りの白い板壁と、半切妻というトタン仕上げの緑の屋根の構成は、キャンパス移転後に建設された旧昆虫学及養蚕学教室（1901、国登録有形文化財）と同じで、旧正門とともに札幌農学校時代の生き証人として現在のキャンパスに佇んでいます。